

## 児童発達支援・支援プログラム

### 【 基本情報 】

事業所名	社会福祉法人ももその学園 療育センターももっこ
作成年月日	令和 7年 2月 1日
法人理念	「ともに生きる社会」を基調に、これまでの地域の信頼と共感を大切にしつつ、地域に広がる福祉の文化の創造を推進します。
目的	ことばや社会性、運動の発達が気がかりなお子さんを対象に、お子さんやその家族が地域の中で生活しやすくなるよう支援します。
営業時間	月曜日～金曜日 午前9：30～午後4：30
送 迎	現在対応していません。

### 【 支援内容 】

本人支援	<p>お子さんの発達特性に合わせ、グループまたは個別で支援します。社会性の発達に支援が必要なお子さんに対しては、集団遊びや一对一のやりとりを通して、友だちと上手に関わって遊べるように、また、ことばの発達に支援が必要なお子さんには、理解力や言葉の表現力を高められるような支援を行います。これらは『本人支援』の5領域の視点に基づいて、計画・実施をしていきます。</p> <p>個別の発達段階は、発達検査の情報とともに「NCプログラム」を使用し半年に1回アセスメントを実施して個別支援計画に反映させます。また、保護者に対してお子さんの育ちの共有にも役立てます。</p>
家族支援	<p>保護者に対して、子どもの特徴を理解し、子育ての不安や悩みが軽減されるように支援します。就学について、また、子育てについての情報交流ができるように、保護者向けの勉強会や交流会（茶話会）を計画し、ご案内します。年に1回程度、在籍の園に訪問しお子さんの集団での様子や課題について把握を行い、保護者とも共有します。</p>
地域支援 地域連携	<p>地域の保健・医療あるいは幼稚園・保育所・子ども園・学校との連携を図り、総合的な発達の支援を行います。</p> <p>園訪問、相談支援員との連携、学校への引継ぎ等、必要に応じた情報共有を行います。</p>
移行支援	<p>お子さんの発達状況や園での様子に合わせて、他事業所や医療（訓練等）をご紹介します。</p>
行 事	保護者勉強会、保護者交流会（茶話会）、療育参観
職員の質 の向上	<p>法人主催の各種研修の他、療育や子育てに関する研修に参加し、知識や技術の向上に努めます。</p>

## 『本人支援』の5領域

児童発達支援計画書は、お子さんの支援を以下の5つの領域の視点に基づいて作成します。

1. 〈健康・生活〉に関する領域
2. 〈運動・感覚〉に関する領域
3. 〈認知・行動〉に関する領域
4. 〈言語・コミュニケーション〉の獲得に関する領域
5. 〈人間関係・社会性〉人との関わりに関する領域

5領域の支援内容は、お互いに関連しあって成り立っており、重なる部分もあります。お子さんへの支援の大きな目標は、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものです。ご家庭や地域社会での生活に活かされるために行われるものであり、園や学校に引き継がれていくと良いものです。

健康・生活	<p>●健康状態を把握します。睡眠、食事、排泄等、生活に必要な基本的技能を獲得し、生活リズムを身につけられるように支援します。</p> <p>排泄：トイレで排泄する、尿意便意を伝える、拭き取り、自宅以外のトイレの使用など          食事：楽しく自分で食べる、偏食を軽減する、食具の使用、咀嚼嚥下、着席して食事          着替え：自分で脱ぐ着る（衣服の前後左右の理解、ボタン・ファスナー・靴下）、衣類の調整          その他：手洗い、鼻かみ、清潔の意識</p>
運動・感覚	<p>●姿勢と運動・動作の向上と補助的手段の活用について支援します。自力での身体移動や歩行など、日常的に必要な移動能力の向上のための支援を行います。視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう遊び等を通して支援し、感覚や認知の特性（過敏・鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。</p> <p>姿勢の保持、体幹を鍛える、力のコントロール、片足ケンケン、手先の巧緻性、協調運動、人との距離感、帽子、着替えなど</p>
認知・行動	<p>●視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用して、必要な情報を収集する認知機能の発達を促す支援をします。環境から情報を獲得し、行動につなげることや、物の機能や属性、形、色、音、空間、時間等の概念から認知や行動の手がかりとして活用できるように支援します。数量、形の大きさ、重さ、色等の習得、情報の適切な処理、認知の偏り等の個々の特性に配慮した支援を行います。</p> <p>理解言語、目の前にないことへの理解（過去、未来、知識等）          全体指示、個別指示の理解（単語、二語文、文章、複数指示）          理解の手がかり（物の提示、指差し、写真や絵カード、文字）          数量、大小、色、重さなどの抽象的な物事理解、簡単なルールの理解、順番、交代、競争、協力等          興味の偏り、こだわり、落ち着き等への対応</p>
言語・コミュニケーション	<p>●具体的な事物や体験とことばの意味を結びつけることによる言語の習得や自発的な発生を促します。話し言葉やシンボル、絵、写真等の視覚的支援を用いて、相手の意図を理解したり自分の考えを伝えたりするなど言語を受容し表出する支援を行います。視線、指差し、サイン、カード、機器などを合わせて、環境の理解と意思の伝達をするためのコミュニケーション手段を活用できるように支援します。</p> <p>発語の有無、レベル（視線、音声、単語、幼児語、2～3語文、文章、助詞、抑揚）          発語の状態（流暢性、抑揚、大人びた話し方、型通りの話し方、一方的な話し方、家庭以外で話さない）          要求、拒否、気持ちの表現方法、二項関係、三項関係、共同注意、共感、やりとりのしかた</p>
人間関係・社会性	<p>●身近な人との親密な関係を基盤として、周囲の人との安定した関係を形成するための支援を行います。人の動きを模倣したり、見立てあそびやごっこあそび等の象徴あそびをしたりすること、一人遊びから平行あそび、大人が介入する連合的あそびを通して、社会性の発達を支援します。自分を理解するとともに、気持ちや情動を調整し、手順やルールを理解して集団活動に参加ができるよう支援します。</p> <p>全体指示、個別指示に応じて行動する。活動、場面の切り替え。          大人：母子・父子関係、愛着関係、信頼関係          子ども：友だちへの興味、関心、模倣、同調、協調、協力、折り合いをつける、譲る等          自己主張、社会的参照行動（やっていい？）、社会的承認欲求（見て見て！）、仲間意識、帰属意識、良い悪いの理解、自己理解（できること、できないこと等）自己調勢力（感情や行動のコントロール）、自己肯定感</p>

## 放課後等デイサービス・支援プログラム

### 【 基本情報 】

事業所名	社会福祉法人ももその学園 療育センターももっこ
作成年月日	令和 7年 2月 1日
法人理念	「ともに生きる社会」を基調に、これまでの地域の信頼と共感を大切にしつつ、地域に広がる福祉の文化の創造を推進します。
目的	ことばや社会性、運動の発達が気がかりなお子さんを対象に、お子さんやその家族が地域の中で生活しやすくなるよう支援します。
営業時間	月曜日 14:00~16:30 *ただし小学一年生対象で8月末まで
営業時間	土曜日 9:30~16:30 *お一人につき月1回の利用となります
送迎	現在対応していません。

### 【 支援内容 】

本人支援	お子さんの発達特性に合わせ、グループまたは個別で支援します。社会性の発達に支援が必要なお子さんに対しては、集団遊びや一对一のやりとりを通して、友だちと上手に関わって遊べるように、また、ことばの発達に支援が必要なお子さんには、理解力や言葉の表現力を高められるような支援を行います。これらは『本人支援』の5領域の視点に基づいて、計画・実施をしていきます。
家族支援	保護者に対して、子どもの特徴を理解し、子育ての不安や悩みが軽減されるように支援します。学校や子育てについての情報交流ができるように、保護者向けの勉強会や交流会（茶話会）を計画し、ご案内します。
地域支援 地域連携	学校との連携を図り、総合的な発達の支援を行います。 相談支援員との連携、学校への引継ぎ等、必要に応じた情報共有を行います。
移行支援	お子さんの発達状況や園での様子に合わせて、他事業所や医療（訓練等）をご紹介します。
行事	保護者勉強会、保護者交流会（茶話会）、療育参観
職員の質 の向上	法人主催の各種研修の他、療育や子育てに関する研修に参加し、知識や技術の向上に努めます。

## 『本人支援』の5領域

支援計画書は、お子さんの支援を以下の5つの領域の視点に基づいて作成します。

1. 〈健康・生活〉に関する領域
2. 〈運動・感覚〉に関する領域
3. 〈認知・行動〉に関する領域
4. 〈言語・コミュニケーション〉の獲得に関する領域
5. 〈人間関係・社会性〉人との関わりに関する領域

5領域の支援内容は、お互いに関連しあって成り立っており、重なる部分もあります。お子さんへの支援の大きな目標は、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものです。ご家庭や地域社会での生活に活かされるために行われるものであり、園や学校に引き継がれていくと良いものです。

健康・生活	<p>●健康状態を把握します。体調について自分で伝えられることを大切に、自己理解と伝え方について支援します。基本的な生活スキルの獲得のために、自分で身支度や物の管理等ができるように支援します。</p> <p>調理活動：様々な調理器具を使います。 買物活動：活動に必要なものを買に行きます。</p>
運動・感覚	<p>●さまざまな課題や遊びを通して、身体や手先の使い方のコツを伝えます。木材や段ボールを使った工作や調理活動を通してさまざまな手先を使った活動を行います。ルールのあるあそびで体を使った活動を取り入れます。触覚や臭覚にも働きかける五感を使う活動を行います。</p>
認知・行動	<p>●集団の中で役割やルールを意識しながら取り組めるように支援します。自分の得意なことや苦手なことを知り、自己理解をしていくことを促します。自分の気持ちや行動に気付いて調整しようとするなど適切な行動への対応を支援します。力や疲れ等の調整を促します。</p>
言語・コミュニケーション	<p>●集団活動の中での発表の機会や相談を通して、自分の思いや要求の相手への伝え方など場面や相手の状況に応じた適切なやりとりを促す支援を行います。</p>
人間関係・社会性	<p>●活動の目標を理解し、役割やルールなどに応じて友だちとの協同・集団遊びのとりくみややりとりを通して、適切な人間関係の形成を促します。他者の気持ちや意図を理解したり、適切な行動をしたりするなど、社会に適應するために必要なソーシャルスキルの獲得を支援します。自分の感情や気持ちに関心を持ち、情緒の安定を図ります。</p>